

## 〈2020年度長野大学研究助成金による研究報告〉

### (準備研究)

# 労働社会学における「時間」の多層性に関する理論的研究： 「時間の社会学」の応用可能性に着目して

松 永 伸太郎\*

Shintaro MATSUNAGA

## 1 研究実績の概要

本研究では、「時間の社会学」に関する理論・学説史的検討を行うことによって、近年学術的・政策的関心を集めている独立自営業者の働き方を捉えるための理論的整備を行うことを試みた。

従来の企業における雇用労働のあり方と比較して、独立自営業者においては自らが労働する時間帯やその長さの選択性が高いため、労働時間を法定労働時間や所定労働時間などの制度的な観点から捉えることに困難がある。さらに、仕事を自らの裁量で獲得することができる反面、一つ一つの仕事の契約期間は短く得られる報酬の変動も大きいと、掛け持ちが必要とあり、生活時間が侵襲されやすい。こうした背景から、独立自営業者における労働時間の編成は生活時間などその他の時間と明確に分離することはなく、複雑な構成を取るようになる。

しかし、こうした独立自営業者特有の時間的構成についての経験的研究は蓄積してこなかった。この背景には、時間的構成の複雑性を捉える理論的視点が、労働研究において蓄積していなかったことがある。一方で、英語圏の社会学においては近年「時間の社会学」と呼ばれる理論的研究が蓄積しており、これを参照することによって労働研究における理論的視点を発展させることが期待できる。本研究は、こうした理論的研究を涉猟し、サーベイすることによって、今後の経験的研究を展開するための理論的基盤を整備することを目的として行った。

文献サーベイの結果として、今後の経験的記述に生かしていくべき二つの方向性を見いだすことができ

た。第一に、社会的行為者が経験する主観的な時間を扱うための視点である。社会学のなかでは、客観的な「時計時間」とは別に、意味世界において経験される時間を扱うための理論的知見が蓄積してきた。その一つとして「リズム」に関する議論がある。社会的世界には、一定の周期や間隔で発生することを期待される出来事が多数存在しており、そのなかにはまさに出退勤の時間のように時計時間で表現される時間であれば、身体の就寝・起床などの時計時間では表現されない時間もある。ここで社会的行為者の経験を記述するうえで重要なのが、こうしたリズムは常に複層的に存在しており、それらは多様な関係性を持つということである。バーバラ・アダム(1990=1997)は、こうしたリズム同士の複雑な関係性を「時間展望 timescapes」と呼んでいる。この概念は、行為者が相互行為の場において創出するリズムの布置関係のことを指している。この視点によって、労働をめぐる時間現象について、そこにかかわる多様なリズムの存在を捉え、それら同士がどのような関係性を有しているかという視点で考察を加えていくことによって、これまでの研究では捉えられなかった水準での分析的な記述が可能になる。

第二の点は、こうした時間展望の記述を、単に理論的な視点として担保するだけではなく、労働者自身による実践の記述として行うことの重要性である。労働をめぐる複層的なリズムは、たとえば業務を効率的に行おうとしたり、プライベートな時間を確保しようとする労働者自身の努力によって編成されていくものである。リチャード・ウィップラによる議論では、こうした労働をめぐる時間編成がマネジメントとして多様な仕方で行

まれていることに着目していた(Whipp et al.2002)。さらにこうした実践に着目する視点は、社会学における相互行為論と深い関わりをもつエスノメソドロジー・会話分析からも得ることができる。ウェス・シャロックは企業における「プロジェクト」が実際の労働現場でどのような概念として用いられているかをフィールドワークに基づいて記述している(Sharrock 2011)。こうした方針に基づいて研究を行うことによって、時間展望を単に理論的な問題としてではなく、労働者による実践そのものとして描くことが可能になる。

本研究ではこのようにして、労働者が持つ時間展望について、それを労働者自身が編成しているものとして記述するという方針が、複雑な時間的秩序を持つ労働現象を社会的に扱うにあたって重要な方針となるということを明らかにした。こうした方針に基づいて経験的研究を行っていくことによって、時計時間では捉えられない多様な労働の時間経験を明らかにしていくことが可能となる。経験的研究の展開については、

今後の課題としたい。

Adam, B., 1990, *Time and Social Theory*. Oxford: Polity. (1997,伊藤誓・磯山甚一訳『時間と社会理論』法政大学出版局)

Sharrock W (2011) The project as an organisational environment for the division of labour. In: Rouncefield M, Tolmie P (eds). *Ethnomethodology at Work*. New York: Routledge, 19–36.

Whipp, R., B. Adam and I. Sabelis (eds), 2002, *Making Time: Time and Management in Modern Organizations*, Oxford, Oxford University Press.

**研究発表(令和2年度の研究成果)**

(学会発表) 計( 2 )件

発表者名	論文標題		
Shintaro MATSUNAGA	Making freelance work sustainable: Management and mutual assistance in a Japanese Animation Studio		
学会等名	発表年月日	発表場所	
IV International Sociological Association Forum of Sociology	2021年2月25日	ブラジル・ポルトアレグレ (オンライン開催)	
発表者名	論文標題		
松 永 伸太朗	環境変化への対処としての マネジメントと労働者生活:『マネジャーの仕事』再考		
学会等名	発表年月日	発表場所	
第93回日本社会学会大会	2020年11月1日	松山大学(オンライン開催)	